

Maxwell[®] 16 FFPE Tissue LEV DNA Purification Kits

(カタログ番号 AS1130) 簡易マニュアル

ご用意いただくもの

- 1.5ml遠心チューブ
- 70℃設定のヒートブロック
- ボルテックスミキサー
- ピペットマン(P-20、P-200、P-1000)とそれらのピペットチップ

試薬の調製、およびカートリッジの用意

Proteinase K Solution (ストック用)の調製

1. 500μlのNuclease-Free Waterを凍結乾燥品のProteinase Kに加える。

溶解したProteinase K溶液は20μg/μlになります。

溶解後は、小分けして-20℃保存していただければ、1年程度は安定して保存できます。

5回の凍結・融解を行っても、顕著な活性低下は認められません。

使用前、Proteinase Kは氷上で融解および保管してください。

1日目の工程

サンプルの前処理のプロトコール

1. FFPEサンプル(5μ厚、1~10枚)を、1.5ml遠心チューブに入れる。
2. 遠心により、サンプルをチューブの底に集める。20μlのProteinase K Solutionと180μlのIncubation Bufferを加える。

この時点で、FFPE全体がProteinase K反応液に浸らないこともあり得ます。
3. キャップを閉め、70℃で1分間インキュベーションする。
4. パラフィンが溶けていることを確認の上、ボルテックスで攪拌した後、遠心により溶液を1.5ml遠心チューブの底に落とす。
5. 再度、70℃のヒートブロックにセットし、一晩のインキュベーションを行う。

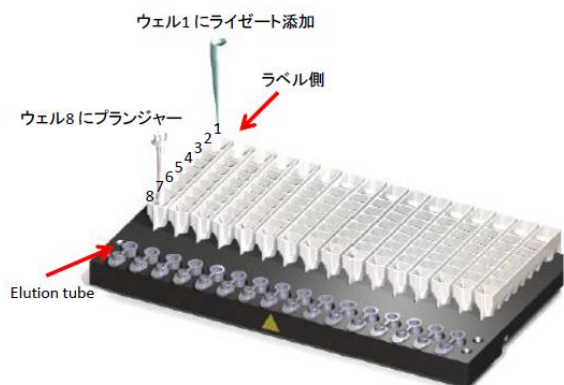
1時間のインキュベーションでも良好な結果が得られる場合もありますが、サンプルのタイプや状態に大きく依存します。

2日目の工程

1. ヒートブロックから取り出し、450 μ lのLysis Bufferを加え、短時間のボルテックスにより攪拌する。
ヒートブロックから取り出した後、室温に放置しておくと、パラフィンの量しだいで、再凝固することがあります。
2. **Maxwell 16での処理まで、室温にて保管しておく。**
処理後のサンプルは冷蔵および冷凍で保管せず、室温にて保管してください。

LEV カートリッジの準備

3. 検体数分のLEVカートリッジをLEV Cartridge Rackに立て、順にそのアルミシールを剥がす。
カートリッジの両端がカチッというまで、しっかりとセットする
注意：Cartridgeの側部に鋭利な箇所がありますので、取扱いには十分ご注意ください。
注意：サンプル数が16より少ない場合には、Maxwell® 16 LEV Cartridge Rackの中央部分をお使いください。
4. 同数のElution Tubeをセットし、50 μ lのElution Bufferを加える。
Elution Tubeを差し込む穴には、赤色のシリコンリングがあります。Elution Tubeはグッと強く押し込んでください。
また、Elution Tubeのフタは絶対に閉めないでください。
5. LEVカートリッジのウェル8に、LEVプランジャーを置く。
6. 約600 μ lのライゼート全部をMaxwell® 16LEV Cartridgeのウェル1に添加する。
ウェル1は最も大きなウェルです。カートリッジラベルに一番近く、Elution tubeからは最も遠い位置にあります。
7. **Maxwell® 16 LEV Cartridge RackをMaxwell® 16 Instrument本体にセットし、精製操作をスタート。**



注意：サンプル数が16より少ない場合には、Maxwell® 16 LEV Cartridge Rackの中央部分をお使いください